

2004年4月に香川県から『レッドデータブック』が発行されました。これは県内の希少生物を調査したものです。この本によると、香川県で絶滅あるいは絶滅のおそれのある生物が、798種類もいるということです。ここではそのいくつかを紹介します。

右の植物は坂出市の塩田跡地や宇多津町の特定の場所で見ることができません。江戸時代に瀬戸内海交易が盛んな頃、北海道の厚岸地方から船に積んだ砂に種子が混じていたものが、香川に定着したといわれています。

塩水の混じる砂地に生えるので、塩田はアッケシソウにとっては最高の場所でしたが、製塩業の近代化にともない塩田が減少し、生育場所がなくなってきました。

次に示した植物や動物も香川県では希少生物とされています。



アッケシソウ



シコクカッコソウ

サクラソウのなかまで、讃岐山脈のごく限られた地域の湿った谷沿いにしか生育していない。



クマガイソウ

ランのなかまで、讃岐山脈に近い山間部にまれに分布しているが、個体数は非常に少ない。



キビトリシズカ

平野部の林の中などで生育している。森林開発や林道の改修などで、生育地が減少している。



ショウドシマレンギョウ

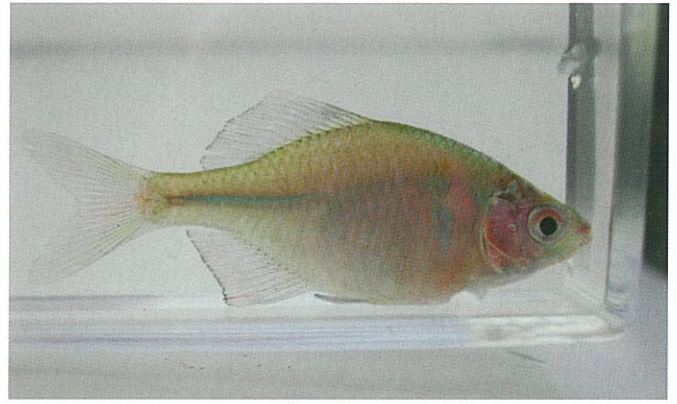
全国的にも小豆島の限られた岩山でしか生育していない固有の植物であり、とても貴重である。





オニバス

スイレンのなかまで、香川では平野部の20か所程度のため池で生育している。



ニッポンバラタナゴ

山際にある人目につきにくい小さなため池や、その下流の河川のみで生息している。



オヤニラミ

1970年代までは、土器川や金倉川で普通に見られていたが、現在、生息地は限られている。



カスミサンショウウオ

平野部の山（五色台、琴平山など）の湿地やため池に生息しているが、個体数は少ない。



ヒキガエル

小豆島や平野部の山、山間部に生息しているが、産卵場所（ため池）の減少で、減ってきている。



タガメ

かつては、水田で普通に見られた水生のカメムシのなかまである。香川県では現在見られない。

## 私たちの環境と生物

これらの生物たちが見られなくなってきたのはどうしてでしょうか。これらの生物に共通して言えることは、きまった環境でしか生きることのできないということです。もし、見つけることができたなら、そっと見守り続けていきましょう。

また、周辺環境を守ることも大切なことです。生物たちは、私たちに環境の大切さを訴えています。つまり、生物を知ることは、私たちの生活環境を考えることにつながると言えます。

### 調べてみよう

これらの植物や動物たちが少なくなった原因について考え、ふるさと香川の自然環境を守るために私たちに何ができるのかを、みんなで話し合ってみましょう。



メ モ

A series of horizontal dotted lines for writing, starting below the header and extending to the bottom of the page.